

令和6年12月5日
課名 土木建築局営繕課
担当者 課長 吉田
外線 082-513-4190

「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2024」の最終審査結果について

1 要旨・目的

魅力ある建築物の持続的な創造に向けたクリエイティブな人材育成の一環として実施している「ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2024」において、全国の建築学生より応募された49作品の中から1次審査で選定された5作品を対象として、公開による最終審査を行い、最優秀作品等を決定した。

2 実施概要

(1) 応募対象者

全国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校に在籍する学生
(個人又はグループによる応募とする。)

(2) 対象建築物

大西旅客待合所(大崎上島町)

3 最終審査の概要

(1) 審査日時 令和6年11月16日(土) 13時00分～17時30分

(2) 会場 TKP広島本通駅前カンファレンスセンター ホール7B
(広島市中区紙屋町2-2-12 信和広島ビル7F)

(3) 内容 1次審査通過者によるプレゼンテーション、審査員による質疑応答など

各賞	応募者氏名	所属学校(所在地)
最優秀作品賞 (1点)	小林 凌輔	東京科学大学大学院 (旧東京工業大学大学院、東京都)
優秀作品賞 (2点)	三牧 莉子、入江 美帆、樋渡 真綾、 楊 美曦	奈良女子大学・大学院(奈良県)
	結城 健仁、定 慶一郎、山地 彩花	東京科学大学大学院 (旧東京工業大学大学院、東京都)
入選作品賞 (2点)	藤巻 太一、岸 夕海	名古屋工業大学大学院(愛知県)
	瀬戸 裕樹、高尾 耕太朗、松岡 達哉、 塚村 遼也、愛野 礼央、齋藤 翔太、 篠田 竜之介	広島大学・大学院(広島県)
審査委員長特別賞※ (2点)	研谷 航輝、朝妻 貴徳、始良 壮志	横浜国立大学大学院(神奈川県)
	青木 皓史、松尾 茉由花	広島工業大学大学院(広島県)

※一次審査(令和6年10月に実施)にて選定

4 最優秀作品及び選評

作品名：「風待ちの塔」 提案者：小林 凌輔(東京科学大学大学院)



完成予定パース



模型写真

(選評)

シンプルでプロポーションが美しく、使用する材料も限られており、風景のこともよく考えられたうまい設計である。島民が日常から島の出口へ向かっていくときの目印になるというのが島の風景として面白い。大崎上島の入口となることに応えることに加え、塔状の構造体を設けることで、煙突効果による自然換気を促すといった、環境への配慮も組み込まれているのが魅力的である。この待合所が、様々な目的で訪れた方たちの、新しい交流を生む場となることを期待したい。

5 審査委員

委員	氏名	所属等
審査委員長	原田 真宏	建築家、MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO 共同主宰 芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授
審査委員	キノシタ ヒロシ	建築家、キノシタヒロシ建築設計事務所主宰 広島工業大学非常勤講師
	奥本 卓也	建築家、奥本卓也建築設計事務所代表取締役 広島女学院大学非常勤講師
	小田 博	大崎上島町副町長
	新村 貴史	広島県土木建築局空港港湾担当部長
	川島 満	広島県土木建築局建築技術担当部長

6 最終審査会の様子

現地で公開審査を実施、また、YouTube により WEB 配信を行った。



審査会場の様子



公開プレゼンテーションの様子



審査委員による選考の様子



最優秀作品賞表彰式の様子

7 今後の予定

最優秀作品は、その提案趣旨を踏まえ、実施設計者による設計を進めていく。

(次ページ) 最優秀作品提案書

風待ちの塔

大崎上島の玄関口として、潮風と人々を迎え入れ、送り出す。
昼間は島民も旅人も集まって賑わい、夜は静かに海と街を照らす。
中ノ鼻灯台や観光案内所といった島の要素と共鳴しながら、
街のシンボルとなる「風待ちの塔」としての待合所を提案します。

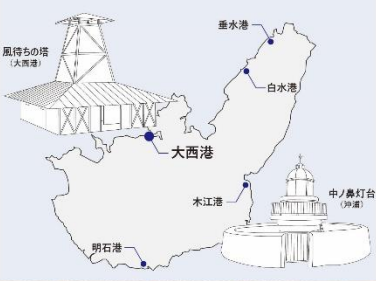


01 大崎上島のシンボルとして

大崎上町には5つの港があり、大崎港を中心と本州から島を訪れる人々を迎え入れる**玄関口**となる場所です。ここに新しく建つ待合所には、利用者にとって快適で利用しやすいだけでなく、**街のシンボル**としての意味合いが含まれると考えます。

島の南東部、沖浦には中ノ**灯台**が海と街を照らし続けています。近歩、取り巻くが景観に彩るため、「**灯台文化**」と呼ばれるものにもなっています。その**象徴的な価値**は今も確かにあると考えます。文化、そして観光の価値を持ち、どんなときも迎えてくれる、そんな存在が西港に必要なのではないのでしょうか。

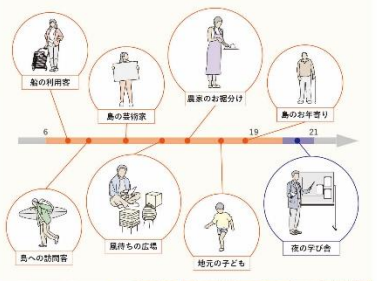
そこで、沖浦の反対側に位置する大西港に、従来の土俵構造物としての灯台ではなく、**訪れる人々を迎え入れ、街に光を灯り続けるような「風物たちの塔」**を計画します。



02 もう一つの「風待ちの広場」へ

新たに結成された待合所は、日本海の観光客と漁民とを繋ぎながら、もう一つの「**高橋村の広場**」であるようにデザインしました。旅人と利用者の住居が交わるだけでなく、農家の人がお客分けに来たり、話し相手を探しにお年寄りの方が訪れたりと、**誰もが気軽に来れる**ような待合所を考えました。そこに行けば温かいお茶を、暮らしの中心であり、旅の中心である、そんな場所になるとを目標としました。

また、この待合所は島内の3つの高校の中心に位置しています。フェリーの最終便が港を立つ9時半ごろから、待合所は**「夜の学びの会」**として高校生と島の人たちが**相互に学ぶ**場所になります。大崎島島学、国際的な教育、海洋工学などの専門教育を行う特徴ある3つの高校と連携しながら、「**教育の島**」づくりに貢献します。

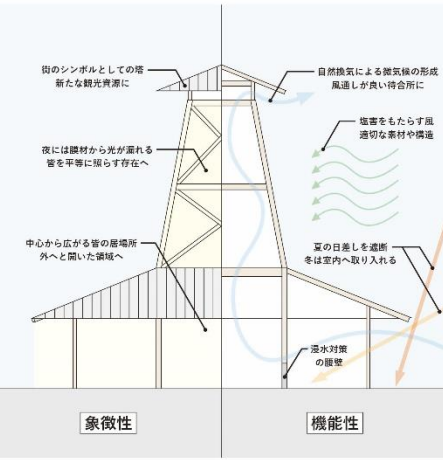


03 象徴性と機能性の両面を備えた「塔」

街のシンボルとなる「風待ちの塔」ですが、この塔は**象徴的な価値**だけでなく海沿いの過酷な環境を耐え抜く**機能的な特性**も兼ね備えています。環境やコストの削減に貢献しながら、人々にとって居心地の良い待合所が実現します。

■ 街のシンボルとして（象徴性）

- ・両から両街からも視認しやすい「風待ちの塔」は、構造体の外皮に、**膜材**を用いることで夜間は柔らかな光が漏れ、辺りを照らします。**港周辺の安全性も**高めることが期待されます。
- ・待合所は外部に開放することができ、領域を広げた**広場空間**が形成されます。この待合所の設えが開かれた皆の居場所を体現します。



■ 海沿いの環境に対する設計（機能性）

- ・ 塔状の建築が自然換気を促し、風通しの良い空間が生まれます。夏は暖かい空気が上部から逃げ、快適な環境を作ります。
- ・ 軒の出が深い庇により、夏は直射日光を遮断し、冬は暖かい自然光を室内へ取り入れます。
- ・ 海からの潮風による塩害を防ぐために、構造は塩害に強い木造とし、壁体、腰材、床についても塩害に強く、清掃が容易な素材を選択します。
- ・ 浸水対策として、高さ1050mmの腰壁を設置します。

04 柔軟に領域が広がっていく、海と街に開いた待合所

フェリーの到着前に多くの利用客が集まったり、月2回の「風待ちの広場」のイベントで賑わったり、はたまた夜が更けて皆が家に帰ったりと、**様々な場面**が考えられる待合所であるからこそ、**扉の開け閉め**によって柔軟に領域を作るプランとしました。

■ 通常時（フェリー待ち）

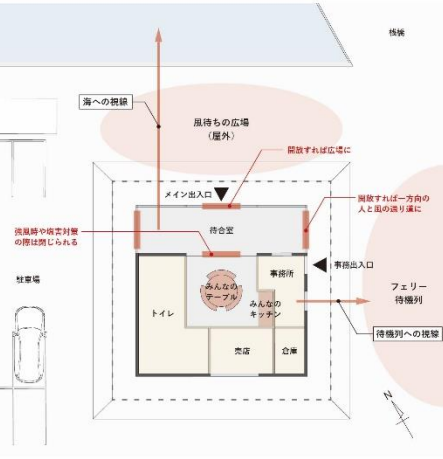
- ・その日の天候や風向きによって、自由に関口を開けられます。風が欲しくなったら北側の扉を開ければ外から吹く風が塔の上部へと抜けていきます。北側はガラス戸なので、扉を閉めても事務室から待機列や桟橋へと視線が通ります。

■ イベント時（風待ちの広場）

- ・全ての扉を開放することで、外と一体となった広場空間が生まれます。お店を出したり、弾き語りが始まったり、そんな空間が広がります。売店の窓を開ければ、建物全体を風が通り抜けていきます。

■ 閉鎖時（夜間、強風時）

- ・全ての扉を閉鎖すると、南側は閉じた壁に囲まれた一室空間となります。強風時にも潮風が内部に入ることを防ぐことができます。夜間には、静かな空間でテーブルを囲んで話をすることもできます。

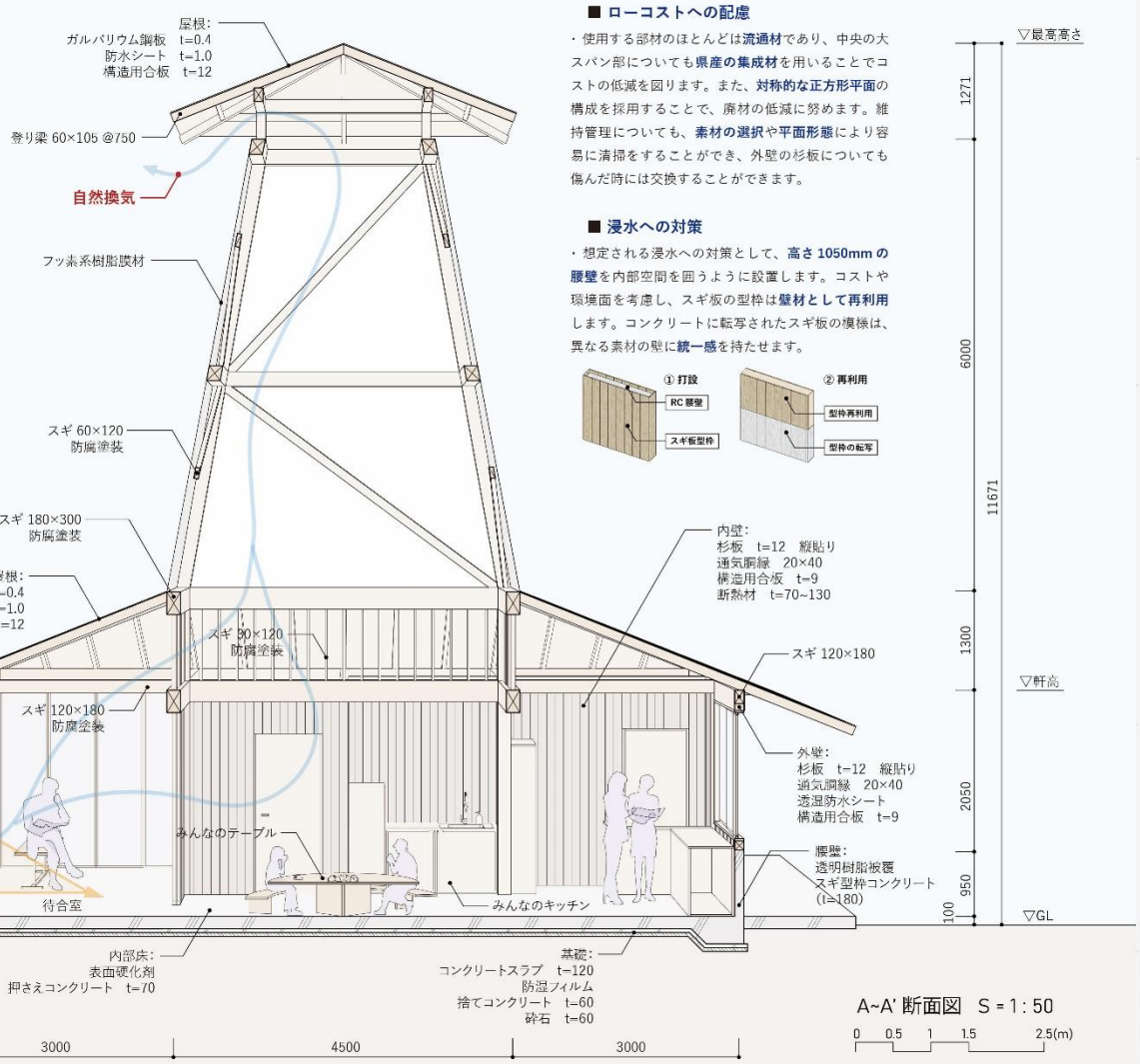


■ 自然エネルギーの活用

- ・塔状の構造は**自然換気**を促し、塔の下の1300mmの隙間から各部屋からの空気が上へと送られます。庇の角度と長さは**夏の直射日光を遮蔽し、冬は最大限取り入れる**よう決定しました。壁体には**断熱材**を入れ、快適な温熱環境を作ります。

■ 塩害への対策

- ・床は全体を土間とし、清掃が容易に行えるようにする必要があります。また、強風時には扉を完全に閉めることで、**潮風の流入を防ぎます**。
- ・構造は塩害に強い木造とし、壁体にも板を用いて、外に開口すること、耐力差をバラスよく配置し、塔の部分も適切に筋交いを入れることによって強風時にも対応します。
- ・他にも、屋根には**ガルバリウム鋼板**を、膜材には**フッ素系樹脂**を使い、塩害による被害を防ぎます。ガラスや、キッチンなどのステンレスの什器については、**定期的な清掃**によって劣化を防ぎます。

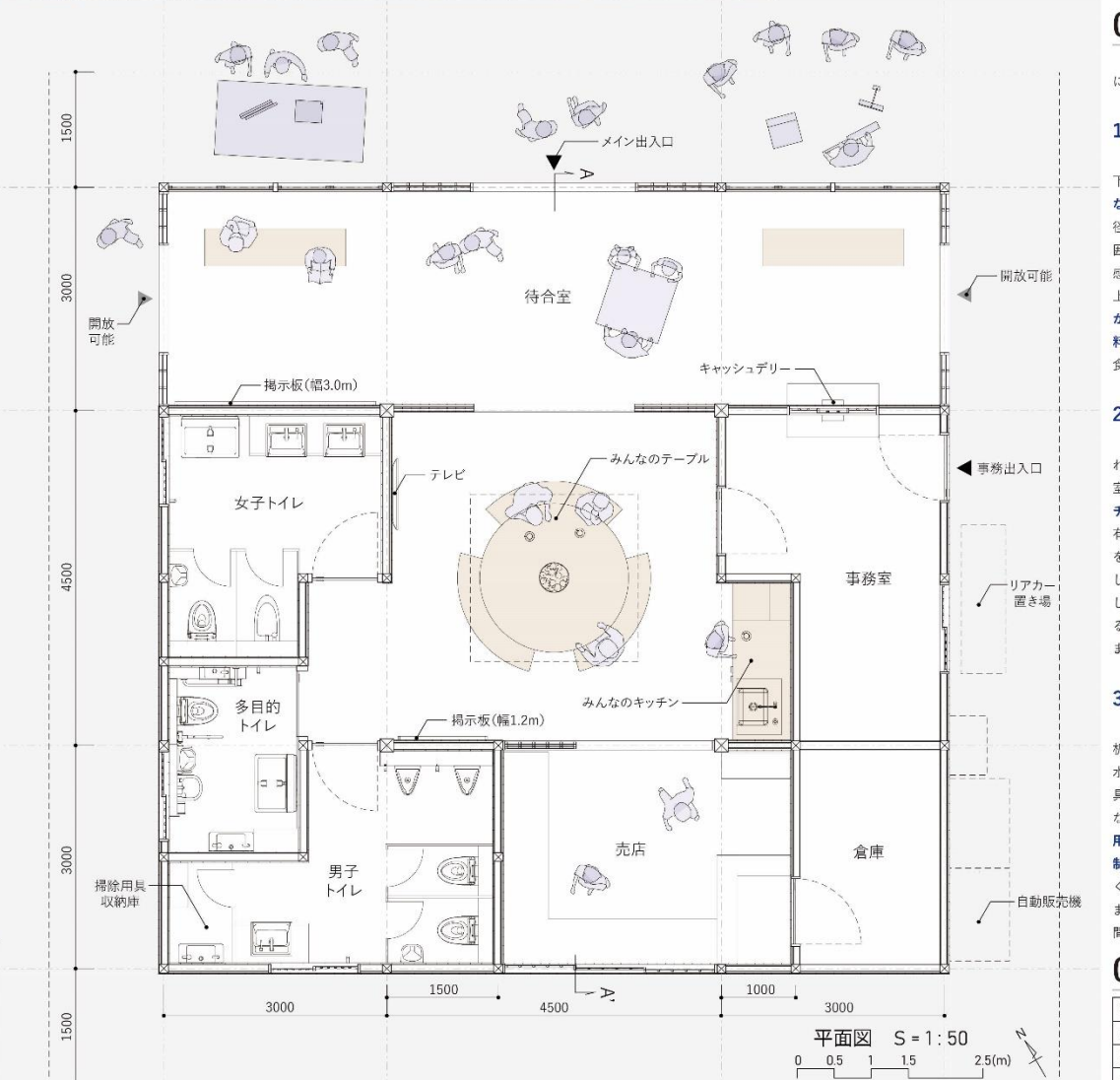


■ ローコストへの配慮

- ・使用する部材のほとんどは**流通材**であり、中央の大スパン部についても**県産の集成材**を用いることでコストの低減を図ります。また、**対称的な正方形平面**の構成を採用することで、**原材の低減**に努めます。維持管理についても、**素材の選択や平面形態**により容易に清掃をすることができ、**外壁の杉板**についても傷んだ時には交換することができます。

■ 浸水への対策

- ・想定される浸水への対策として、高さ1050mmの腰壁を内部空間を囲うように設置します。コストや環境面を考慮し、スギ板の型枠は壁材として再利用します。コンクリートに転写されたスギ板の模様は、異なる素材の壁に統一感を持たせます。

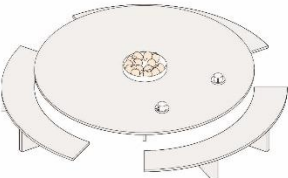


05 人の繋がりを作る、色々な仕掛け

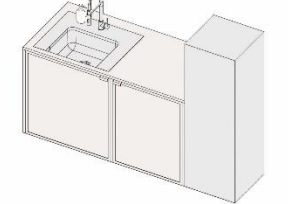
地元住民と旅人の両方が集い、交流が生まれるような待合所にするため
に、仕掛けとして、**3つの仕器と仕組み**をデザインします。

1. 待合所の中心となる、みんなのテーブル

待合所の中心、塔の
下に置かれるのは**みんなのテーブル**です。直径2mの円卓は、皆が
思いながら様々な距離
を生み出します。机
の上には、**取れたてのみかん**や**住民の捌いた魚料理**などが並び、皆で
食事を楽しめます。

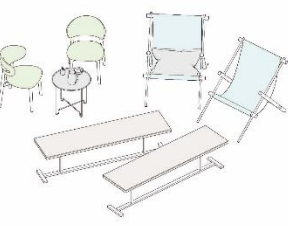


2. 食を通じた関わりを作る、みんなのキッチン



3. 思い出のつながりを作る、家具のリユース

The illustration shows several pieces of furniture: a green armchair, a small round table with a green chair tucked under it, a blue armchair, a blue folding deck chair, and two long wooden benches. The items are drawn in a simple, sketchy style with light blue and green colors.



06 面積表

待合室	54.0 m ²	多目的トイレ	5.8 m ²
事務室	11.2 m ²	男子トイレ	11.5 m ²
売店	12.0 m ²	女子トイレ	9.7 m ²
倉庫	6.0 m ²	合計	110.3 m ²